

例会 No 158

No 4-25 1994.2.2 発行

1993~1994RIテーマ
行動に信念を
信念は行動に

BELIEVE IN WHAT YOU DO
DO WHAT YOU BELIEVE IN



Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 東京多摩グリーンロータリークラブ

1993~1994年度クラブ目標 “出会いを大切にしよう……例会で、みんなが、待っている”

第158回 例会報告 (1/26)

司会者 SAA 戸田 昭寿

◇点鐘 会長 横倉 舜三

◇ロータリーソング「奉仕の理想」
ソングリーダー 吉沢 洋景

◇お客様紹介 会長 横倉 舜三
山中 いずみ様 (青少年交換学生)

◆ 会務報告 会長 横倉 舜三

ロータリー財団国際親善奨学生候補として2人の応募がありましたのでご報告いたします。

斎藤 正樹 (22才男) 東京工業大学4年
住所 多摩市永山2丁目

奥田 博子 (23才女) 東京大学大学院修士課程
住所 多摩市鶴牧3丁目

財団の選考委員会受験に合格しますと、奨学生に対する助言、指導、援助を行うカウンセラーとして顧問ロータリアンをクラブから選任いたしますのでご協力をお願いいたします。

◆ 幹事報告 幹事 北村 幸彦

1) 例会臨時変更のお知らせ

東京稲城ロータリークラブ
2月10日(木) → 2月7日(月)

江戸川競艇場
社会奉仕視察見学

3月 3日(木) → 3月4日(金) 3月5日(土)
地区大会に振替

新高輪プリンスホテル

東京成城新ロータリークラブ
3月10日(木) → 3月4日(金) 3月5日(土)

地区大会に振替

4月21日(木) 創立5周年記念式典
京王プラザホテル

2) 義援金をお願い

先般発生した米国カリフォルニア州ロスアンゼルス近郊の地震による災害義援金として一人当たり500円を目安として募金をお願いしたいとしてガバナー事務所よりFAXがきております。

3) ロータリー財団奨学生の件

この度財団国際親善奨学生候補の受けがおこなわれ当クラブでは2名の応募がありこれを受理いたしました。

4) 地区大会登録料未納の方は至急納入してください。

◆次年度会務報告

会長エレクト 宮本 誠

被選理事会を毎月初回例会日に開催する事に決定しました。第1回目は、2月2日です。

委員会報告

◆出席委員会 委員 根本 泰守

	総数	出席	MU	欠席	出席率
本 日 報 告	53	47	2	4	90.57%
前 回 訂 正	53	46	4	3	92.45%

メイクアップ

萩生田茂夫 (1/25 多摩)

田中 實 (1/24 調布)

欠席届出者

中山 順一郎、城倉 正博、杉田 誠、

横倉 恒雄

欠席者 なし

◆親睦委員会 委員長 吉尾警太郎

誕生日祝・結婚記念日祝をお渡ししたいと思えます。

☆誕生日祝

小林 和夫 令夫人, 根本 泰守 令夫人

☆結婚記念日祝

伊藤 英也会員ご夫妻

★★★★★★★★★★

ニコニコBOX

委員 鶴海 英三郎

★★★★★★★★★★

足立潤三郎 1月23日日曜日八王子GMGゴルフ場西の8番ホールにてホールインワンを達成、この日は女房の誕生日でした。

2週連続で女房からニコニコを預って来ました。誕生日祝いと、Bクラス研修会優勝したそうです。その他?

横倉 舜三 忘れていた結婚記念日にお祝いをいただきました。

新海源四郎 藤本さん(財団)、ありがとうございました。

遠藤 二郎 足立さんホールインワンオメデトウ
吉尾警太郎 東分区ゴルフ藤本さんへ報告、250ヤード超ドラコン2発

中山 恒武 皆様、こんばんわ

小林 和夫 お正月モ終リデスノデ、ワズカナオ年玉

赤尾 恭雄 風邪をひいてしまいました。寒さ厳しい折柄、健康にはくれぐれも注意して下さい。

村上 久 よい天気が続いて気持ちがいいですね!

宮本 誠 寒くてニコニコがこわばります。

北村 幸彦 多摩東分区ゴルフ大会での団体優勝おめでとございます。

以上 合計 33,000円

サインバイノウ募金	18,500円
合計	300,000円
目標	400,000円
残	100,000円 頑張ろう!!

500円玉募金 25,228円

合計 97,808円

◆ロータリー豆知識

ロータリー情報委員長 赤尾 恭雄

1月27日はポールハリスの命日(没後47年)であり明日から1週間はロータリーを築いた偉大な先人達の遺徳を偲ぶ「追悼記念週間」です。

“ロータリーへの思いを新たに、さらなる自己研鑽を誓おう!!”

◆サインバイノウ・プラン

国際奉仕委員長 大松 誠二

モンゴル大使館、ガンホヤック商務官よりお礼の手紙が届きましたので紹介します。

『いつもお世話になっております。モンゴルからけんしゅうせい4人を受け入れることで、本当にお世話になり、おつかれさまでした。ぶじにおわり彼女ら4人もよてい通りにモンゴルについたようです。電話をかけてかくにとりました。彼

女らが、帰るときに、みなさまにぜひよろしくおつたえ下さい。本当にお世話になったと、いわれたことをつたえます。彼女らが、レポートをだして帰りましたがその後、私がモンゴルからのおきやくといそがしくなりDAIMATSUさんとも、れんらくがとれなくなり、すみませんでした。2人分のレポートを日本語にしましたが、のこり2人分と私の分がちかいうちにできますので、あとでおくります。

会長はじめ、SHINKAIさん、おくぎさん他のみなさまによりしくおつたえ下さい。またれんらくします。

今ちょうど、よなか0時になりました。

さようなら

ガンホヤック』

◆ゴルフ同好会

伊神 稔

1月26日「多摩東分区ゴルフコンペ」にて、堂々の団体戦優勝しました。選手の皆様、大変御苦勞様でした。

選手名 新海 源四郎 吉尾 警太郎
小林 和夫 伊神 稔

次回は4月18日 千葉の予定

第9回多摩プロアマチャリティゴルフが4月25日に、狛江多摩川RCがホストクラブとなり「東相模GC」にて開催されます。当クラブは15名の参加協力依頼が有りました。御協力お願いします。

卓 話 (1/19)

川崎北RC 津田 進 様

古代の飛鳥時代は皇族や豪族の殺し合いで権力を握った者が、リッチな生活を持ちました。金持ちでなくて"権力持ち"と表現しなければなりません。江戸時代は米をどれだけ生産でき、どれだけ



集めるパワーがあるかで人間の豊かさがはかられ

たのですから"米持ち"です。明治になって初めて"金持ち"が登場します。戦後は列島改造以来"土地持ち"の時代が続きました。では次にくる豊かな生活感はどこに求められるかといえば、それは"情報持ち"であるというのです。如何に多くの情報を収集できるか、これがこれからの豊かさにつながるというのであります。アメリカの著名な未来学者、アルビン・トフラーによれば、工業文明の支配が衰え新しい勢力が誕生する。そして新しい富を創り出すシステムが出来上がってくると言っております。まず情報知識の交換がなければ新しい富は創り出せない。大量生産から多種多様な製品の特別注文生産となるけれども、新しい情報技術のおかげでコストは変わらない。従来の生産要素であった土地・労働・原材料・資本にとって代って、知識が重要となる。動きの鈍い官僚制度に代わって、小規模作業ユニットとなる。顧客は生産プロセスにも重要な貢献をするため、産業革命によって分離した生産者と消費者が、新しい富を創り出すサイクルで再び結合する。

激動する社会情勢の中で、ロータリーもまた、当然社会の変革に応じていかなければなりません。現代社会のさまざまなニーズのもとでロータリーに何が求められているのかを考えなければならない。それが今日のテーマであり、論ずべき緊急の問題であることに、何の異論もありません。

ただそれを論ずるならば、その前にまず、ロータリーとは何か、ロータリーの伝統形成期に考えられていたことはどんなものであったか、それを明らかにしておく必要があると思うのです。

一個の林檎を囲んで三人のロータリアンが坐っています。この林檎を自由にとれといえ、力の強い者か、すばしっこい者が一個まるごととってしまうでしょう。平等に分けなさいといえ、誰かがしぶしぶナイフを取り出して三つに切って分けるでしょう。人は自由を欲します。しかし自由を欲しているのは自分だけではありません。人間誰もが欲しているものです。とすれば、ある人の自由は他の人の自由によって限界づけられている事になります。そこで自由を自分の側からだけ考えるのではなく、自分を限界づける側の自由に

立って考え、更に、このことを他から強制される制約と受け取らず、むしろ積極的に、こういう自由の限界こそ、人の人たる所以であり、人は孤立した状態では生きられないという、人間の弱さに対する自覚を生んでいったらどうでしょうか。人間のこの本質的な弱さを根底において、それを明確に自覚した時、その境地を利己と利他の調和と呼ぶのであらうと思います。その境地に達すれば、一つの林檎を皆が抵抗なく三つに分けて、喜んで食べることになるでしょう。決議23-34の第1、ロータリーとは何か、ロータリーは一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と、他人のために奉仕したいという感情との間に、常に存在する矛盾を柔らげようとするものである。に通ずると思います。この考えが、職業人としてのロータリアンの実務のなかで長い間生きつづけ、利潤獲得の欲求に文化性の裏打ちをして、人間存在の第一義を守ってきたのでした。かようなロータリーの伝統形成を振り返ってみるならば、ロータリアンは少なくともその会員構成からいっても、自分の業界だけでは会うことのない、他の業界の良質な職業人と毎週例会で会うことにより、異質の発想からの刺激を受け易い立場にあります。そのことからして、絶えず変遷してやまない社会情勢とニーズに対しても、柔軟な思考能力を持つようになっています。従って、激動する千変万化の問題にロータリーがどう対応すべきかも、クラブ例会において会得した利己と利他の調和の境地をもって、一人一人の立場で、すでに見るべきものを思い定めていると考えられるのであります。

今まで話してまいりました事は、ロータリーとは何か、ロータリーの伝統形成期に考えられていたことはどんな事であったか、についてでした。それを明らかにすることができ、信じることができれば、すでにしてそのロータリアンは、各々の立場で時代への対応をはじめているのだというこ

とです。決して改まった話ではなく、普通のロータリアンの普通の行動の中に、今、ロータリアンは何を為すべきかというテーマの解答があるということ、申し上げたかったわけでありませぬ。

ただひとつ、ここにめんどろな困った問題があります。伝承、歴史というものです。ロータリーとは何か、伝統形成期に考えられていたものは何か。それは簡潔に言えば決議23-34にある利己・利他 調和の思想であります、これが常に存廃の危機にさらされているのは、ご高承の通りです。

何故そうなるのか。伝承というものの不可思議さです。伝承というのは、自然の山河や自然の森・鳥・獣が人間と一体である時に、語りつがれるものであって、その一体感がなくなれば、山河が荒れ森の鳥獣が姿を消すように、伝承も又消えうすれていくのだろうと思います。

古いことは今実在していないのですから、自分の心の中でよみがえらせる他ありません。すると、歴史とは今の自分の心が生きかえらせている事になります。ですから、歴史を良く知ると言うことは、自分自身をよく知ることと少しも変わりません。ロータリーの歴史をいくら読んでみても、自分の魂の歴史と共鳴しなければ、それはいつのまにか抜け出ていってしまうでしょう。ロータリーの創始者たち、ロータリーの建設者たちは今居りませんが、彼らが生き生きと活動した時代を、よみがえらせる事は夢ではないと思います。それは、現在のロータリアンたちの深い思いの中のみあるということを上掲して、本日の話を終わらせていただきます。

東京多摩グリーンロータリークラブ



会長：横倉 舜三 副委員長：森田 舞子
幹事：北村 幸彦 委員：海野 米一・奥木 博勝・吉沢 洋景
会報委員長：小島 周二郎 小坂 一郎・佐伯 和廣

※例会場 多摩そごうデパート7F サファイヤバンケットルーム

事務局：東京都多摩市落合547
多摩センタービル7F
TEL 0423(72)6463/FAX 0423(72)6491

※例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30